

# とびだせ！かがわぬいぐるみ病院！

代表者 徳田 匡紀（医学部医学科 3 年）

## 1. 目的と概要

本プロジェクトは、保育園、小児病棟、学童保育、地域の祭りなど、香川県内に基盤を置きつつも、各所子どもが集まる場で模擬診察や保健教育を実施することにより、子どもたちから医療に対する恐怖心や不安感を取り除くに足るだけの知育を行うことを前提としたものです。従来のこういった活動に加え、医学的知見のみに拘りすぎず、食育、徳育などといった、児童を対象とした様々な健康指導をはじめとする活動の拡充を目指します。一方で構成員たち自身も、医学的もしくは教育的知見を得、活動に反映させることで、子供たちにより良い保健教育を還元できるよう努力し、様々な形態のコミュニティに参画した経験を活かして、主体的な活動を展開します。

## 2. 実施期間（実施日）

平成 29 年 4 月 1 日から 平成 30 年 3 月 31 日まで

## 3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業は、ぬいぐるみを患者に見立て子どもに医師役を演じてもらう「お医者さん体験（模擬診察）」や、紙芝居などの手段で大勢の子どもたちに健康な暮らしの大切さを伝える「保健教育」を実施することが主な活動です。以下では主に新たな取り組みについて紹介させていただきます。

4 月 30 日 「歩天 UTAZU」

宇多津町で開催された祭典にお声がけいただき、1 日で 100 名近くの児童と、私たちの主だった活動の一つである模擬診察を行うことが出来ました。この活動への参加を案内して下さった責任者の方からは、この際に来年度の活動もお願いされています。今回の活動への参加人数は異例の多さで、「各活動における対象人数を増やす」ことや、保護者の方々との会話を通して「医療への関心、健康への取り組みを地域に広げる」ことが出来ました。この祭典の前にはケーブルテレビにも出演させていただき、私たちの活動をより多くの方々にとっていただくための第一歩を踏み出せてように思います。今

年度が初の参加でしたので、参加費などを特にいただくことはなかったのですが、関係者の方からは参加費をもらうことを提案していただきました。今後の活動ではこういったときに自信をもって参加費をいただけるよう、メンバーの活動への習熟度を高め、より意義あるブースにしていきたいと思えます。このような経験は活動の自立化とも密に関係しておりますので来年度以降の活動でも引き継いでいきたいです。(↓その際のブースの様子)

5月3, 4日 おぎゃっと21

5月20, 21日 愛媛大学医学部祭

8月 むいぐるみ総会



おぎゃっと21での活動は徳島大学の方と、愛媛大学医学部祭での活動は愛媛大学の方と、それぞれ合同で活動させていただきました。むいぐるみ総会では東京で開催され、むいぐるみ病院の活動に携わる学生が全国から集まり、香川大学からも1名の学生が参加しました。むいぐるみ総会では、各大学の活動内容を相互に共有することができました。私たちはむいぐるみ病院設立以来、特に模擬診察においては児童に如何に興味を持ってもらうかということを考えながらその形態を変えつつ活動してきましたが、やはりこういった、他の大学の方々の手法から学ぶ機会は何物にもかえがたく感じました。実際に、これらの活動の後、特に児童の活動における安全性の観点から柔らかい素材の敷物を準備するようになりました。また、対象年齢を低めに設定している模擬診察では物足りない小学校高学年の児童のために、イラストが多く掲載されている医学系の入門書などを購入、配置し、受動的ではありますが知育の機会をつくることを試みました。来年度はプロジェクターを使って、模擬診察中の児童を待つ保護者の方々にも満足していただけるような展示場を作っていきたいと考えています。

10月 香川大学医学部祭 香川大学祭

医学部祭では上述の通り、上半期で得た経験をもとに、より充実した展示を行うことができました。(右 医学部祭の様子)

また、香川大学祭では児童文化研究会の方々とお話しする機会があり、来年度からはむいぐるみ病院も香川大学医学部祭のみならず香川大学祭にも参加させて頂くという案も浮かび上がってきました。この際、児童文化研究会さんの活動を視察しており、これは近く達成されるのではないかと確信を強めるに至りました。同じく児童を対象に活動している私たちならば、お互いに情報を共有しあい、活動をより良いものにできると信じています。児童文化研究会さんに限らず、活動を通じての縁を大事に



し、活動を展開していきたいと思えます。

また、「みんな子育て応援団大賞」（香川県、四国新聞社主催）で、四国新聞社賞を受賞し、3月8日に香川県庁で表彰式がありました。このように私たちの活動が行政にも評価されるということは誉であると同時に、これからの活動に期待されているという事でもあると考えています。より一層精進していきたいです。

#### 4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

模擬診察の場面では、活動に参加してくれた児童たちと笑顔の溢れる触れ合いをすることが出来ました。また、その保護者の方々からは活動の折に触れて様々なよい評価をいただくことができ、これらの活動で私たちが得た良い評価は、本学の評価にも通じるものであると考えています。

また、部や大学の垣根を越えた広報活動を展開して参加者を募ることができました。さらには、三木町のみならず宇多津町、高松市など、新聞やテレビを通じて私たちの活動を知ってもらう足掛かりのようなものをこの一年間で作ることができました。とはいえまだまだ時間はかかるかと思いますが、徐々にメディアの効果によって活動の幅が広がれば、より一層多くの方々に活動を知っていただけるようになり、それにより活動を通じて健康の輪を地域社会に広げていけるものと考えています。

#### 6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

こういった成功や進歩の反面、活動が広がったことの弊害ともいえる課題が出てきました。それは活動を担うメンバーの不足です。構成員こそ確かにそれなりの人数がいるのですが、あきらかに参加の人数は足りておりません。これは構成員が医学部のみからなるため、そのカリキュラム上仕方のないことではあるのですが、積極的に活動に参加している構成員の学業への負担が見られることは間違いなく、こういったことは私たち学生の本分に外れてしまうことであるので、今後の一番の課題となると考えています。上述のように私たちの活動は今後さらに大きく展開されていくと考えられ、この為の増員は必須事項であると考えています。幸いなことに私たちは、次年度の新入生に活動を紹介する場を設けていただいておりますので、積極的に活動を共にする仲間を探していきたいと思えます。

今後は行政と連携し、市内の保育園などでこういった活動を展開していくことを最終目標に据え、そのための足掛かりを一つ一つ探していきたいと考えています。

## 7. 実施メンバー

代表者	徳田匡紀	医学部 3年
構成員	田畑諒	医学部 6年
	高島唯	医学部 6年
	酒井善紀	医学部 5年
	佐藤凜彩	医学部 4年
	北中真里奈	医学部 4年
	石井宙生	医学部 3年
	木村佳代	医学部 2年
	板東里佳	医学部 3年
	辻本虹歩	医学部 3年
	渡邊朱里	医学部 3年
	藤井麻由	医学部 3年
	釜田菜那	医学部 2年
	永野宏奈	医学部 2年
	伊計かおり	医学部 2年
	瀬戸要	医学部 2年
	葉久鈴菜	医学部 2年
	寺田谷紗希	医学部 2年
	伊藤紗智	医学部 1年
	大平采也加	医学部 1年
	谷川莉理花	医学部 1年
	島田絵理	医学部 1年
	守屋優	医学部 1年
	山岡千夏	医学部 1年
井田実優	医学部 1年	
松本莉子	医学部 1年	
渡邊咲柚実	医学部 1年	